

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	104人	算数	104人	理科	104人
第5学年	国語	119人	算数	119人	理科	120人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

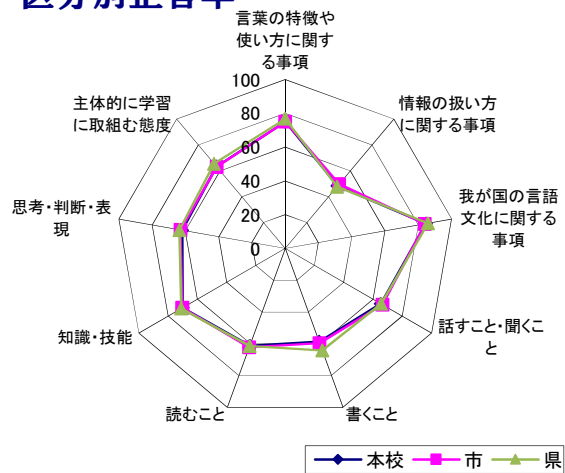
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.0	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	48.4	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	84.6	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	65.4	66.5	65.5
	書くこと	58.7	59.6	64.2
	読むこと	61.2	62.2	61.5
観点	知識・技能	70.0	70.2	71.1
	思考・判断・表現	61.9	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	63.3	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

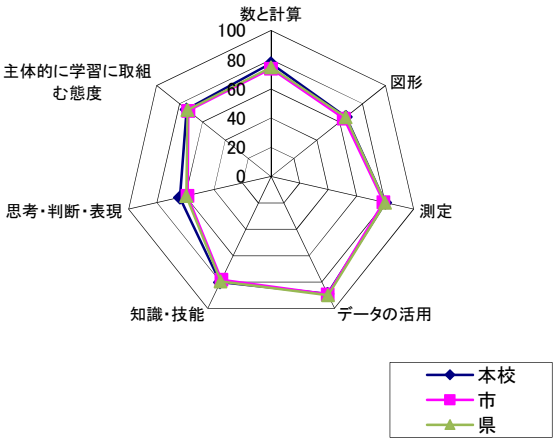
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県と市の平均を下回っている。 ○「主語と述語の関係について理解している」に関する問題の正答率は、県や市の平均よりも3ポイント高い。 ●「ローマ字で表記されたものを正しく読んでいる」に関する問題の正答率は、県や市の平均よりも5ポイント以上低い。	・漢字の読み・書きの能力を高めるため、ドリルなどを活用し、毎日継続して指導していく。 ・ローマ字の習熟を図るために、練習プリントを用意し、継続して取り組ませる。また、タブレットを使用する際、ローマ字入力を推奨し、ローマ字の必要性を理解させていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均よりは高いものの、市の平均より低く、正答率は5割を下回っている。 ○「国語辞典の使い方を理解している」に関する問題の正答率は、県の平均より2.6ポイント、市の平均より0.5ポイント上回っている。 ●「中心となる語や文を見つけて要約している」「話し手が伝えたいことの中心を捉えている」に関する問題の正答率は、市の平均を4ポイント下回っている。	・様々な場面で国語辞典を活用できるよう、引き続き学習環境を整備していく。 ・情報を活用する力を伸ばすために、国語科だけでなく総合的な学習の時間など他教科においても、収集した情報を取捨選択し、自分の目的に合わせて要約する活動を多く取り入れていく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均は上回っているものの、県の平均より1.3ポイント下回っている。 ○「主語や述語の関係について理解している」に関する問題の正答率は、県の平均より3.6ポイント、市の平均より3.4ポイント高い。 ●「漢字やへんのつくりを理解している」に関する問題の正答率は、県や市の平均と同程度である。	・漢字に対する興味や関心を高めることができるよう、成り立ちや意味について考えながら漢字を読んだり書いたりできるよう指導していく。 ・主語・述語の関係の理解を深められるよう、文の組み立てを意識して文章を書くよう継続して指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県と市の平均を下回っている。 ○「相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話している」に関する問題の正答率は、県や市の平均より3ポイント高い。 ●「話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている」に関する問題の正答率は、市の平均より6ポイント低い。	・自分の考えが相手に伝わるように話す力を身に付けるために、国語科だけでなく、朝の会などを活用し、話す機会を多く設けていく。 ・話の中心を考えながら聞くことができるようにするために、国語科だけでなく、話を聞く様々な場面において、話の内容を振り返ったり確かめたりする時間を設けていく。
書くこと	平均正答率は、県と市の平均を下回っている。 ○「自分の考えを明確にして書いている」に関する問題の正答率は、市の平均より3ポイント高い。 ●「指定された長さで文章を書いている」に関する問題の正答率は、市の平均より6ポイント、県の平均より11ポイント低い。	・文章を書く力を育てることができるよう、国語科だけでなく、他教科においても、条件に合わせて文章を書いたり、情報を取捨選択し文章を書いたりする場面を多く設定し、指導していく。
読むこと	平均正答率は、県と市の平均を下回っている。 ○「説明文を読み、叙述を基に段落・文章の内容を捉えている」に関する問題の正答率は県や市の平均より5ポイント以上高い。 ●「文章を読んで感じたことや分かったことを共有している」に関する問題の正答率は、県や市の平均より5ポイント以上低く、5割を下回っている。	・物語文を読み取る力を伸ばすために、登場人物の気持ちや場面の様子を読み取る学習では叙述を基に考えたり、感想の交流を行う際に叙述のどこから考えるのかを述べたりできるよう指導していく。 ・説明文の内容を読み取る力を伸ばすために、国語科だけでなく、他教科においても、収集した情報から重要な語や文を見つけて要約する活動を多く取り入れていく。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	77.5	73.8	74.8
	図形	65.4	63.7	65.3
	測定	80.2	78.9	80.1
	データの活用	88.9	89.3	90.0
観点	知識・技能	80.3	78.3	79.5
	思考・判断・表現	64.0	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	73.9	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

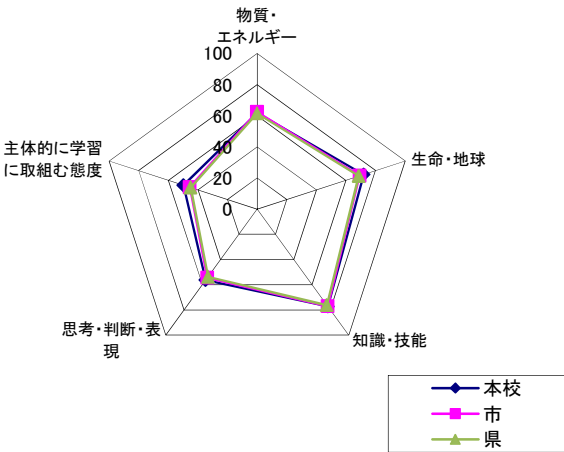
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率が、市の正答率を3.7ポイント、県の正答率を2.7ポイント上回った。 ○数直線上に示された分数を読み取る設問について、県の正答率を8.8ポイント上回った。 ●数の相対的な大きさについての設問で、市の正答率を2.1ポイント、県の正答率を4ポイント下回った。 ●わり算(余りあり)を適用して文章問題の正しい答えを求める設問で、市の正答率を2.2ポイント、県の正答率を2.7ポイント下回った。	・既習事項を家庭学習や一人一台端末でのドリル学習などを活用し、習熟を図る。 ・事柄や関係を図や表などに表したりするなどして問題の場面の理解を深めてから立式させる活動を取り入れていく。
図形	平均正答率は、市の正答率を1.7ポイント、県の正答率を0.1ポイント上回った。 ○コンパスとものさしを使って、作図を行う問題の正答率が市より6.4ポイント、県の正答率を5.2ポイント上回った。 ●円と球に関する設問での正答率が県の正答率を3ポイント下回った。 ●理由を説明する設問での正答率が低い。	・図形の特性を活用した問題に柔軟に対応することができるよう、具体物を用いた指導を行う。 ・理由を自分の言葉で表現する機会を多く設けることで、自分なりに表現する力を高めていく。
測定	平均正答率は市の正答率を1.3ポイント、県の正答率を0.1ポイント上回った。 ○身近なものの重さを正しい単位を選び解答する問題がよくできている。 ●「1分=60秒」の関係を使った問題にやや課題が見られる。	・今後も身近なものがどのくらいの重さや長さであるか、実物を用いて理解できるように指導したい。 ・「1分=60秒」に限らず長さに関しても、自分の身長や休み時間の長さなどを例にして考える機会を設け、着実な定着を図りたい。
データの活用	平均正答率は市の正答率を0.4ポイント、県の正答率を1.1ポイント下回った。 ○棒グラフの1目盛りの表す数を問う問題については正答率が約9割と高かった。 ●棒グラフを読み取る問題については、正答率が県の平均より1.3ポイント低い。	・類似の問題に取り組ませたり、グラフに表す活動に取り組ませたりして習熟させたい。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.7	62.5	61.5
	生命・地球	72.0	69.2	68.6
観点	知識・技能	77.3	77.2	76.3
	思考・判断・表現	56.4	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	49.8	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	領域の平均正答率は、市や県の正答率とほぼ同等である。 ○「じしゃくのせいしつ」に関する問題の中では、磁石の極の性質や、鉄のみが磁力を帯びることをよく理解している。 ●豆電球に明かりがつくものの組み合わせとして、正しいものを選択する問題の正答率が低い。 ●問題の資料の読み取りが不十分で、きちんと設問に答えることができなかった児童が見られた。	・実験結果をまとめる活動の中で、重要な語句を繰り返し使うことで定着を図る。 ・問題文をよく読み、問われている内容を理解して問題に取り組むことができるよう指導する。
生命・地球	領域の平均正答率は、ほとんどの問題で県や市の平均よりも高い。 ○「こん虫の育ち方」に関する問題では、こん虫のからだのつくりをよく理解している。 ●虫眼鏡の使い方に関する問題への正答率が低かった。	・用具の正しい使用方法や操作方法を理解させようと、観察等の活動を十分に行うようにする。 ・実際に見たり、体験したりした内容については、今後できるだけ授業の中で取り入れ、実験や観察を丁寧に扱っていくようにする。